

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|---------------|------------|--|
| 事業所番号 | 3650180189 | | |
| 法人名 | 医療法人 敬老会 | | |
| 事業所名 | グループホーム フォレスト | | |
| 所在地 | 徳島市八万町大野7-1 | | |
| 自己評価作成日 | 令和4年2月18日 | 評価結果市町村受理日 | |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/ |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|-------------------------------|--|--|
| 評価機関名 | 社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会 | | |
| 所在地 | 徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階 | | |
| 訪問調査日 | 令和4年3月10日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者の方に毎日笑顔で生活して頂けるように職員も笑顔と明るい挨拶を心がけている。コロナ禍で利用者の方とご家族にはなかなか直接会って頂くことが出来ないが、パソコンや携帯電話を利用したりリモート面会や窓越しでの面会を実施している。地域との交流もままならないが、コロナが落ち着いたときには屋外で地域のお祭りのお神輿巡幸でグループの敷地内を訪問して頂いたり、敬老の日やクリスマスには地域の保育所とリモートでの交流を行い、可能な方法を模索しながら地域との交流を継続している。協力病院とは密な連携がとれており、小さなことでも相談して利用者の方の体調の変化に対応することができる。同一敷地内グループが経営する医療・福祉・保健施設があり、ADLの変化やご家族の希望によりその方に適した医療・福祉を提供することができる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、国道から少し離れた河川沿いに位置している。敷地内には、同一法人が運営する医療機関や他サービス事業所等があり、行事や災害訓練等で連携協力を図るとともに、利用者の急変時等に対応可能な体制を整備し、利用者や家族等の安心につなげている。理念として、“生きがいを見つけ、共に育む”を掲げ、利用者一人ひとりのできることを見つけ、日常生活のなかで役割を担うことで、生きがいにつながるよう支援している。身体拘束廃止委員会や外国人技能実習サポート委員会など、各委員会を組織し、サービスの質の向上に取り組んでいる。新型コロナウイルス感染症の流行下においても、近隣保育園とオンラインを活用した交流を行うなど、関係性の継続に努めている。また、利用者と一緒に、園庭で野菜を作ったり、下準備や後片付けを行うなど、食事を生きがいにつなげている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当する項目に○印 |
|---|---|--|---|
| 56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない | 63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | |

自己評価および外部評価結果

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|--|--|--|---|
| | | | 1番街 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 入社時に管理者から理念について説明を行い、理解・共有ができるように努めている。毎朝の申し送りの最後には事務所内に掲示した理念を職員で唱和してから業務にとりかかるようにしている。 | 事業所では、職員間で協議して考えた、独自の理念を掲げている。理念は、毎朝の申し送り時に唱和したり、事業所内に掲示したりして、職員間での共有化を図っている。管理者は、地域との関わりについて、理念に記載することを検討している。 | 今後は、より地域密着型サービスの意義を踏まえた理念について、職員や関係者等からの意見も踏まえつつ、検討することに期待したい。 |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | コロナ禍で例年のような交流を持つことは困難な状況の中、秋には地域のお祭りのお神輿巡幸を屋外で距離を保ちながら実施したり、敬老会やクリスマスには日ごろから交流している地域の保育所とリモートでの交流を実施した。 | 事業所では、利用者と一緒に、地域の行事やイベントに出かけるなど、日常的に地域と交流を図っている。感染症(コロナ等)の流行下においては、神輿の来訪を受け入れたり、近隣保育園とオンラインで交流したりするなど、交流が継続できるよう工夫している。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | グループとして地域の方の介護相談に応じることが出来るよう常時職を掲げて受け入れ体制を整えている。認知症に関する相談が入った際にはグループの相談員と共に話を聞き、支援できるように努めている。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | コロナ禍により、今年度の運営推進会議はご家族・地域の方・地域包括支援センターへ資料を送付し、意見を頂くという形での開催となっている。委員会活動やコロナ禍での地域との関わりなどについて意見を頂きサービス向上に活かしている。 | 2か月に1回、運営推進会議を開催している。感染症の流行に伴い、書面による会議を実施している。事業所の取り組み等について送付し、意見等を得ている。出された意見等は、サービスの質の向上に活かしているが、反映した内容について、委員に報告するまでには至っていない。 | 今後は、出された意見等をもとに、職員会議等で協議・検討し、サービスの質の向上に向けて取り組んだ内容について、各委員に報告することに期待したい。 |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 市役所への訪問もままならない状況であるが、介護保険制度等についての疑問点などは電話で気軽に相談し助言を頂いている。 | 事業所では、感染症の流行に伴い、事業所の活動や利用状況等を、電話や郵送等で市町村に伝えている。また、地域包括支援センター主催の研修会に参加したり、入居の相談を受けたりするなど、相互の協力関係を築いている。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 身体拘束に付いての指針とマニュアルを定め、身体拘束を行わない為に事業所で出来る代替案について職員から意見を聞いて独自のケア方法についてまとめ、実践出来るよう努めている。 | 事業所では、3か月に1回、身体拘束に関する研修会を開催し、拘束の内容や弊害等について、職員間での周知を図っている。職員は、利用者一人ひとりの気持ちに寄りそいつつ、身体拘束をしない支援に努めている。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 虐待防止対策委員会において虐待が起こる背景や職員が自らの言動や内面を振り返って考える機会を持つようアンケート等実施している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|--|--|-------------------|
| | | | 1番街 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | ご家族から成年後見人制度についての相談があった際には説明が出来るように制度に付いて学ぶ為に年1回の研修を実施している。今年度は3月に実施予定。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 入居時には契約書及び重要事項説明書について、十分な時間をとって説明を行っている。また自由に質問していただき、理解が得られるようにしている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 利用者の思いに気付けるように、日常の会話を大切にしている。好きな食べ物を聞いてメニュー作りの参考にすることも。ご家族への配付資料と一緒に手紙を添える事があるがご家族からも要望等の返信が帰ってきて思いに気付く事もある。 | 事業所では、日ごろの支援のなかで、利用者の意向等の把握に努めている。家族等については、毎月のお便りや面会時等に意見を聞きとっている。出された意見等は、職員間で協議・検討し、運営面に反映している。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 各種委員会やミーティングには管理者も参加し職員の意見に耳を傾けるようにしている。良い意見は実現できるよう援助している。 | 管理者は、毎日の朝礼や定期的な各委員会等の機会に、職員からの意見・提案等を聞きとっている。日ごろの支援の際にも、職員が提案を出しやすい雰囲気づくりに努めている。出された意見等をもとに、職員一人ひとりの力量を活かしつつ、運営面に反映している。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 職員の勤務状況・業績などを業務中の動きの中から確認し、各自に合った担当業務・職場環境を整備している。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 新人職員には、1週間研修期間を定め、基本的な技術を学ぶ機会を設けている。また事業所内での勉強会を年間計画を立てて実施し、本年度はリモートでの外部研修にも積極的に参加した。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 本年度はリモートでの研修に積極的に参加し、他施設の職員との交流を持つ機会が多くあった。全国規模の研修もあり、同じ悩みや喜びを共有することで、意気が上がる機会となった。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-----------------------------|-----|--|--|--|-------------------|
| | | | 1番街 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 時節柄訪問面談は難しいこともあるが、入居前には出来るだけ本人と会話する機会を持つようにしている。入居されてからもお話を傾聴しなんでも話せる安全・安心な場所と思って頂けるよう努めている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 入居時の契約には十分に時間をかけ、丁寧に説明している。質問にもその場で答え、不安が解決できてから入居となるよう努力している。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 入所時のケアプランを立てる前に本人・ご家族から生活の希望を聞くようにし、内容によって他施設のケアマネと連携を図り、他のサービス利用の支援も行っている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 「生きがいを見つけ、共に育む！」という理念の元出来ることをして頂いている。洗濯物畳みや拭き掃除、野菜の収穫、共に楽しみながら得意分野を見つけられるよう支援している。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | コロナ禍となってから出来るだけ電話やフォレスト便り、お手紙等で日常の様子や体調変化、出来事について報告するようにしている。課題の解決策などを一緒に考えていくようにしている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 日頃の会話の中から、馴染みの場所等の話題が出てくるように試みている。現状ではコロナ感染予防の為に、外出もままならないところではある。 | 事業所では、利用者の馴染みの関係継続に向けて支援に努めている。感染症の流行下においては、窓越し面会やリモート面会を行ったり、家族等の協力を得つつ趣味活動を支援したりして、馴染みの関係が途切れることのないよう支援している。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 日常、リビングや居室でひとりで過ごされている方には出来るだけ声かけを行い、孤立しないように支援している。また職員が橋渡し役となって利用者同士の関係が上手くいくように努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 1番街 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 退去後も自宅や入院先の病院を訪問したり、いつでも気軽に来て立ち寄れるよう声かけなどを行い、継続した関係作りに努めている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 各職員は担当の利用者と積極的にコミュニケーションを図り、会話の中から本人の意向を把握出来るように努め実現できる方法を考えるようにしている。 | 職員は、日ごろの利用者との関わりのなかで、思いや意向等の把握に努めている。意思の表出が困難な方については、家族や専門職等から情報を得つつ、会話した際の表情の変化などから、本人本位に検討している。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 入居時にご家族から得た情報を基にしながら日頃のコミュニケーションの中でも今までの生活歴について聞くように努めている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 毎日のケース記録に個々の様子を記録し、生活リズムの把握に努めている。また、変化があれば申し送りノートを活用し、職員全員が共有できるようにしている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 定期的なモニタリング、担当者会議の他、アクシデント発生時や体調に変化があった時にはケースカンファレンスを行い、少しの変化にも対応しながら介護計画を作成している。本人・家族の希望、医師や看護師の意見参考にしている。 | 事業所では、利用者や家族、関係者等の意向・意見を踏まえた介護計画書を作成している。毎月、モニタリングを行うとともに、半年に1回、計画を見直し、現状に即した計画となるよう取り組んでいる。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 個別にファイルを作成し、日頃の状態等を記録するようにしている。実践の結果や気づき等は随時申し送りノートに記入し、職員間での情報の共有に努め、課題の解決、介護計画の見直しに生かしている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 本人の状態や家族の意向のもと、個別の機能訓練や通院など、必要な支援を柔軟に対応している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|--|-------------------|
| | | | 1番街 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 「生きがいを見つけ、共に育む！」という理念の元出来ることをして頂いている。洗濯物畳みや拭き掃除、野菜の収穫、共に楽しみながら得意分野を見つけられるよう支援している。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 入居時に本人と家族の意向を確かめ、希望になるべく添えるように柔軟な対応をしている。協力病院での受診、必要に応じて眼科、皮膚科等への受診付き添い、送迎を行っている。 | 事業所では、入居時の段階で、利用者や家族等の希望するかかりつけ医を確認し、受診を支援している。通院の際は、家族等の協力を得ている。週1回、認知症専門医の往診があるなど、地域の医療関係者と連携を図り、適切な医療の受診を支援している。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 協力病院の看護師とは毎日の申し送りや受診時に利用者の方の情報を詳しく報告し対応について助言を貰ったり、看護面での知識について教を請うたりできる関係性を築く事が出来ている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 病院へ入院した場合は、医師・看護師との情報交換を行い、早期退院に向けて調整している。見舞いにも出かけ、状態把握の為、担当職員との情報交換にも努めている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 入居時に医師・家族・本人と共に終末期の方針について話し合い、意向を確認している。その後も状態に応じて随時話し合い、方針を確認しながらその時を迎えられるよう支援している。 | 事業所では、契約時の段階で、重度化や終末期の指針について説明し、同意を得ている。本人の心身状況の変化に応じて、家族等の意向を確認しつつ、かかりつけ医や関係者等と相談し、チームで支援に取り組んでいる。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 緊急時対応マニュアルが作成されており、急変や事故が発生した時に誰もが同じ対応が取れるようにしている。また定期的に行われている勉強会に取り入れることで再認識出来るように努めている。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 年二回の避難訓練を行っている。また新人研修時には個別に指導している。避難訓練時には災害時の必要物品の在庫確認を行っている。 | 事業所では、年2回、消防署や地域住民等の協力を得つつ、避難訓練を実施している。感染症の流行下においては、法人が運営する併設の他サービス事業所と連携を図りつつ、日中・夜間を想定した訓練を実施したり、マニュアルや備蓄を確認・整備したりしている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 1番街 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 人生の大先輩として、尊敬の念を持って接し、「～させて頂く」という謙虚な態度を常に持つよう指導している。接遇マナー・プライバシーの保護についての研修を行う他、個別に指導も行っている。 | 事業所では、年1回、プライバシーや個人情報保護、接遇マナーなどの研修会を開催し、サービスの質の向上を図っている。職員は、研修会等で共有した内容を活かし、利用者一人ひとりを尊重した支援に努めている。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 担当者会議やカンファレンスには出来るだけ本人に参加して頂き、意見を伝えて頂く場としている。普段の会話の中でも希望等が言いやすい雰囲気作りをし、声かけの仕方を工夫して自己決定できるようにしている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 基本的な1日の流れは決めているが、食事・入浴・起床・就寝の時間は個人の生活スタイルに合わせて柔軟に対応している。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 入居前から使用していた化粧品や、好みに合った衣類を持参して頂き、その方らしい身だしなみやおしゃれが出来るように支援している。移動美容室も利用して、カットや毛染め等の希望に添えるようにしている。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 個々の能力に合わせて調理の下ごしらえやテーブル拭き、配膳等を担って頂いている。また裏庭で野菜の栽培をしており、利用者も一緒に収穫を行い、食事に取り入れることでより食事を楽しんで頂いている。 | 食事は、毎食、手作りのものを提供している。利用者の好みや旬の野菜を取り入れるとともに、五感刺激を考慮した献立を作成している。利用者と一緒に、下準備や配膳、後片付けなどを行うことで、一人ひとりのやりがいにつなげるとともに、食事が楽しみなものとなるよう取り組んでいる。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 食事・水分摂取量・体重をチェックし、変化のある方には個別に対応している。普段の会話から好物を聞いたり、食事形態や時間を変えたりしながら必要な栄養摂取が出来るように支援している。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 食後には洗面所で歯磨きをして頂くように声かけを行い、介助が必要なところは職員が介助を行っている。また状況に応じてスポンジやガーゼを使用して、全員の方が口腔内の清潔を保てるように支援している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|--|-------------------|
| | | | 1番街 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 申し送りやカンファレンスの時に個々の排泄パターンについて成功事例等を報告・検討しながら少しでも失禁回数を減らし、トイレでの排泄が出来るよう工夫をしている。 | 事業所では、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握している。個別の状況に応じて、可能な限りトイレで排泄できるよう支援している。職員は、さりげない配慮を心がけつつ、自立に向けた支援に取り組んでいる。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 食事に植物繊維を多く摂取出来るように工夫したり、水分摂取や運動量を増やすような働きかけをして、出来るだけ自然な形で排便ができるように支援している。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 希望や体調に合わせて、柔軟に対応している。異性介護に抵抗を示す方には個別に同性介護を行い、気持ちよく入浴して頂ける様にしている。 | 事業所では、週2～3回は入浴することができるよう支援している。一人ひとりの羞恥心や不安感などに配慮しつつ、気持ちよく入浴できるよう取り組んでいる。季節ごとに入浴剤を活用したり、個別にシャンプーを使用したりして、入浴を楽しむことができるよう工夫している。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 居室はもちろんリビングや畳スペース、廊下のソファ等その方の過ごしたいところで自由に過ごして頂けるよう個別に対応している。リラックス効果のある音楽を流す等の工夫もしている。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 服薬情報提供書は事務所に置き、いつでも確認出来るようにして変更があった時は申し送りノートで伝達している。また日常的に病院と連携し、体調変化等を病院に情報提供し、治療や服薬調整に生かしている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 一人ひとりの要望・楽しみがカンファレンス・担当者会議を通じ、ケアプランにもつなげられるよう取り組んでいる。またそのような機会を多く提供出来るよう、家事や余暇の内容を工夫している。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | コロナ禍で、ドライブや買い物は制限せざるを得ない状況である。外気に触れてリフレッシュして頂けるよう敷地内の散歩や中庭に出ての外気浴を積極的に実施している。徳島県の感染状況に応じて制限を緩和し、外出支援が出来るようにしていきたい。 | 事業所では、年間計画・月間計画にもとづき、日常的な外出支援に取り組んでいる。感染症の流行下においては、敷地内で外気を感じることが出来る時間を設けるなど、安全面に配慮しつつ、戸外に出ることが出来るよう工夫している。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 1番街 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 自分で財布を持たれている方もいる。財布を持たれていない方にも、今後外出制限が緩和して買い物に出かけた際にはご自分で支払いをして頂けるように支援していく。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 事務所にだれでも使用出来る電話機を設置し、番号を押す等必要に応じた支援をしている。届いた手紙や葉書は居室にお持ちし、また年賀状も希望者には書いて頂き、出すようにしている。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | リビングには音楽を流してくつろげる雰囲気作りを行っている。年中行事にまつわる飾り物(雛人形、七夕飾り等)、中庭の紅葉等で四季を感じて頂ける工夫をしている。温・湿度計を設置し、必要に応じて加湿・換気を実施している。 | 共用空間は、大きな窓があり、日当たりがよく明るい。壁面には、四季を感じる事ができる掲示物や利用者の作品等を飾り、居心地よく過ごすことができる空間づくりに取り組んでいる。また、定期的に換気等を行い、安全面にも配慮している。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 中庭に面したスペースや陽当たりのよい場所にソファを置き、思い思いにゆったりと過ごして頂けるようにしてる。中庭にはベンチを置き、屋外でのくつろげる場所とし、開放感を味わいながら過ごして頂いている。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 入居時には自宅で使い慣れた馴染みの家具等を持ち込んで頂けるように説明・支援している。家族やペットの写真を飾ったり、定期的によく読まれていた週刊誌をご家族が送って下さったりして自宅での生活を続ける協力も頂いている。 | 居室には、利用者の馴染みの家具や作品、写真などを持ち込んでもらっている。家具の配置等を工夫し、安心・安全に過ごすことができるよう配慮している。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 居室内の家具の配置を工夫したり、居室やトイレの場所をわかりやすくするために貼り紙等をしたり使用方法がわかるような工夫をしている。車椅子を自走される方が移動しやすいような動線を考えテーブルやソファを設置している。 | | |

自己評価および外部評価結果

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 2番街 | 自己評価 | 実践状況 | 自己評価 | 実践状況 |
|-------------------|-----|--|--|-----|------|------|------|------|
| | | | 実践状況 | | 実践状況 | | 実践状況 | |
| I 理念に基づく運営 | | | | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 入社時に管理者から理念について説明を行い、理解・共有ができるように努めている。毎朝の申し送りの最後には事務所内に掲示した理念を職員で唱和してから業務にとりかかるようにしている。 | | | | | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | コロナ禍で例年のような交流を持つことは困難な状況の中、秋には地域のお祭りのお神輿巡幸を屋外で距離を保ちながら実施したり、敬老会やクリスマスには日ごろから交流している地域の保育所とリモートでの交流を実施した。 | | | | | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | グループとして地域の方の介護相談に応じることが出来るよう常時職を掲げて受け入れ体制を整えている。認知症に関する相談が入った際にはグループの相談員と共に話を聞き、支援できるように努めている。 | | | | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | コロナ禍により、今年度の運営推進会議はご家族・地域の方・地域包括支援センターへ資料を送付し、意見を頂くという形での開催となっている。委員会活動やコロナ禍での地域との関わりなどについて意見を頂きサービス向上に活かしている。 | | | | | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 市役所への訪問もままならない状況であるが、介護保険制度等についての疑問点などは電話で気軽に相談し助言を頂いている。 | | | | | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 身体拘束に付いての指針とマニュアルを定め、身体拘束を行わない為に事業所で出来る代替案について職員から意見を聞いて独自のケア方法についてまとめ、実践出来るよう努めている。 | | | | | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 虐待防止対策委員会において虐待が起こる背景や職員が自らの言動や内面を振り返って考える機会を持つようアンケート等実施している。 | | | | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 2番街 | 自己評価 | 自己評価 |
|----|-----|--|--|------|------|------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 実践状況 | 実践状況 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | ご家族から成年後見人制度についての相談があった際には説明が出来るように制度に付いて学ぶ為に年1回の研修を実施している。今年度は3月に実施予定。 | | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 入居時には契約書及び重要事項説明書について、十分な時間をとって説明を行っている。また自由に質問していただき、理解が得られるようにしている。 | | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 利用者の思いに気付けるように、日常の会話を大切にしている。お好きな食べ物を聞いてメニュー作りの参考にしている事もある。ご家族への配付資料と一緒に手紙を添える事があるがご家族からも要望等の返信が帰ってきて思いに気付く事もある。 | | | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 各種委員会やミーティングには管理者も参加し職員の意見に耳を傾けるようにしている。良い意見は実現できるよう援助している。 | | | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 職員の勤務状況・業績などを業務中の動きの中から確認し、各自に合った担当業務・職場環境を整備している。 | | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 新人職員には、1週間研修期間を定め、基本的な技術を学ぶ機会を設けている。また事業所内での勉強会を年間計画を立てて実施し、本年度はリモートでの外部研修にも積極的に参加した。 | | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 本年度はリモートでの研修に積極的に参加し、他施設の職員との交流を持つ機会が多くあった。全国規模の研修もあり、同じ悩みや喜びを共有することで、意気が上がる機会となった。 | | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 2番街 | 自己評価 | 自己評価 |
|------------------------------|-----|--|--|------|------|------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 実践状況 | 実践状況 |
| II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 時節柄訪問面談は難しいこともあるが、入居前には出来るだけ本人と会話する機会を持つようにしている。入居されてからもお話を傾聴しなんでも話せる安全・安心な場所と思って頂けるよう努めている。 | | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 入居時の契約には十分に時間をかけ、丁寧に説明している。質問にもその場で答え、不安が解決できてから入居となるよう努力している。 | | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 入所時のケアプランを立てる前に本人・ご家族から生活の希望を聞くようにし、内容によって他施設のケアマネと連携を図り、他のサービス利用の支援も行っている。 | | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 「生きがいを見つけ、共に育む！」という理念の元出来ることをして頂いている。洗濯物畳みや拭き掃除、野菜の収穫、共に楽しみながら得意分野を見つけられるよう支援している。 | | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | コロナ禍となってから出来るだけ電話やフォレスト便り、お手紙等で日常の様子や体調変化、出来事について報告するようにしている。課題の解決策などを一緒に考えていくようにしている。 | | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 日頃の会話の中から、馴染みの場所等の話題が出てくるように試みている。現状ではコロナ感染予防の為に、外出もままならないところではある。 | | | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 日常、リビングや居室でひとりで過ごされている方には出来るだけ声かけを行い、孤立しないように支援している。また職員が橋渡し役となって利用者同士の関係が上手くいくように努めている。 | | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 2番街 | 自己評価 | 自己評価 |
|------------------------------------|------|--|---|------|------|------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 実践状況 | 実践状況 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 退去後も自宅や入院先の病院を訪問したり、いつでも気軽に来て立ち寄れるよう声かけなどを行い、継続した関係作りに努めている。 | | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 各職員は担当の利用者と積極的にコミュニケーションを図り、会話の中から本人の意向を把握出来るように努め実現できる方法を考えるようにしている。 | | | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 入居時にご家族から得た情報を基にしながら日頃のコミュニケーションの中でも今までの生活歴について聞くように努めている。 | | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 毎日のケース記録に個々の様子を記録し、生活リズムの把握に努めている。また、変化があれば申し送りノートを活用し、職員全員が共有できるようにしている。 | | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 定期的なモニタリング、担当者会議の他、アクシデント発生時や体調に変化があった時にはケースカンファレンスを行い、少しの変化にも対応しながら介護計画書を作成している。本人・家族の希望、医師や看護師の意見参考にしている。 | | | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 個別にファイルを作成し、日頃の状態等を記録するようにしている。実践の結果や気づき等は随時申し送りノートに記入し、職員間での情報の共有に努め、課題の解決、介護計画の見直しに生かしている。 | | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 本人の状態や家族の意向のもと、個別の機能訓練や通院など、必要な支援を柔軟に対応している。 | | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 2番街 | 自己評価 | 自己評価 |
|----|------|---|------|---|------|------|
| | | | 実践状況 | | 実践状況 | |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | | 「生きがいを見つけ、共に育む！」という理念の元出来ることをして頂いている。洗濯物畳みや拭き掃除、野菜の収穫、共に楽しみながら得意分野を見つけられるよう支援している。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | | 入居時に本人と家族の意向を確かめ、希望になるべく添えるように柔軟な対応をしている。協力病院での受診、必要に応じて眼科、皮膚科等への受診付き添い、送迎を行っている。 | | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | | 協力病院の看護師とは毎日の申し送りや受診時に利用者の方の情報を詳しく報告し対応について助言を貰ったり、看護面での知識について教えるを請うたりできる関係性を築く事が出来ている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | | 病院へ入院した場合は、医師・看護師との情報交換を行い、早期退院に向けて調整している。見舞いにも出掛け、状態把握の為、担当職員との情報交換にも努めている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | | 入居時に医師・家族・本人と共に終末期の方針について話し合い、意向を確認している。その後も状態に応じて随時話し合い、方針を確認しながらその時を迎えられるよう支援している。 | | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | | 緊急時対応マニュアルが作成されており、急変や事故が発生した時に誰もが同じ対応が取れるようにしている。また定期的に行われている勉強会に取り入れることで再認識出来るように努めている。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | | 年二回の避難訓練を行っている。また新人研修時には個別に指導している。避難訓練時には災害時の必要物品の在庫確認を行っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 2番街 | 自己評価 | 自己評価 |
|----------------------------------|------|--|---|------|------|------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 実践状況 | 実践状況 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 人生の大先輩として、尊敬の念を持って接し、「～させて頂く」という謙虚な態度を常に持つよう指導している。接遇マナー・プライバシーの保護についての研修を行う他、個別に指導も行っている。 | | | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 担当者会議やカンファレンスには出来るだけ本人に参加して頂き、意見を伝えて頂く場としている。普段の会話の中でも希望等が言いやすい雰囲気作りをし、声かけの仕方を工夫して自己決定できるようにしている。 | | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 基本的な1日の流れは決めているが、食事・入浴・起床・就寝の時間は個人の生活スタイルに合わせて柔軟に対応している。 | | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 入居前から使用していた化粧品や、好みに合った衣類を持参して頂き、その方らしい身だしなみやおしゃれが出来るように支援している。移動美容室も利用して、カットや毛染め等の希望に添えるようにしている。 | | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 個々の能力に合わせて調理の下ごしらえやテーブル拭き、配膳等を担って頂いている。また裏庭で野菜の栽培をしており、利用者も一緒に収穫を行い、食事に取り入れることでより食事を楽しんで頂いている。 | | | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 食事・水分摂取量・体重をチェックし、変化のある方には個別に対応している。普段の会話から好物を聞いたり、食事形態や時間を変えたりしながら必要な栄養摂取が出来るように支援している。 | | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 食後には洗面所で歯磨きをして頂くように声かけを行い、介助が必要なところは職員が介助を行っている。また状況に応じてスポンジやガーゼを使用して、全員の方が口腔内の清潔を保てるように支援している。 | | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 2番街 | 自己評価 | 実践状況 |
|----|------|---|--|------|------|------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 実践状況 | |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 申し送りやカンファレンスの時に個々の排泄パターンについて成功事例等を報告・検討しながら少しでも失禁回数を減らし、トイレでの排泄が出来るよう工夫をしている。 | | | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 食事に植物繊維を多く摂取出来るように工夫したり、水分摂取や運動量を増やすような働きかけをして、出来るだけ自然な形での排便ができるように支援している。 | | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 希望や体調に合わせて、柔軟に対応している。異性介護に抵抗を示す方には個別に同性介護を行い、気持ちよく入浴して頂ける様にしている。 | | | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 居室はもろんリビングや畳スペース、廊下のソファ等その方の過ごしたいところで自由に過ごして頂けるよう個別に対応している。リラックス効果のある音楽を流す等の工夫もしている。 | | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 服薬情報提供書は事務所に置き、いつでも確認出来るようにして変更があった時は申し送りノートで伝達している。また日常的に病院と連携し、体調変化等を病院に情報提供し、治療や服薬調整に生かしている。 | | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 一人ひとりの要望・楽しみがカンファレンス・担当者会議を通じ、ケアプランにもつなげられるよう取り組んでいる。またそのような機会を多く提供出来るよう、家事や余暇の内容を工夫している。 | | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | コロナ禍で、ドライブや買い物は制限せざるを得ない状況である。外気に触れてリフレッシュして頂けるよう敷地内の散歩や中庭に出るの外気浴を積極的に実施している。徳島県の感染状況に応じて制限を緩和し、外出支援が出来るようにしていきたい。 | | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 2番街 | 自己評価 | 自己評価 |
|----|------|--|------|--|------|------|
| | | | 実践状況 | | 実践状況 | |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | | 自分で財布を持たれている方もいる。財布を持たれていない方にも、今後外出制限が緩和して買い物に出かけた際にはご自分で支払いをして頂けるように支援していく。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | | 事務所にだれでも使用出来る電話機を設置し、番号を押す等必要に応じた支援をしている。届いた手紙や葉書は居室にお持ちし、また年賀状も希望者には書いて頂き、出すようにしている。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | | リビングには音楽を流してくつろげる雰囲気作りを行っている。年中行事にまつわる飾り物(雛人形、七夕飾り等)、中庭の紅葉等で四季を感じて頂ける工夫をしている。温・湿度計を設置し、必要に応じて加湿・換気を実施している。 | | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | | 中庭に面したスペースや陽当たりのよい場所にソファを置き、思い思いにゆったりと過ごして頂けるようにしてる。中庭にはベンチを置き、屋外でのくつろげる場所とし、開放感を味わいながら過ごして頂いている。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | | 入居時には自宅で使い慣れた馴染みの家具等を持ち込んで頂けるように説明・支援している。家族やペットの写真を飾ったり、定期的によく読まれていた週刊誌をご家族が送って下さったりして自宅での生活を続ける協力も頂いている。 | | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | | 居室内の家具の配置を工夫したり、居室やトイレの場所をわかりやすくするために貼り紙等をしたり使用方法がわかるような工夫をしている。車椅子を自走される方が移動しやすいような動線を考えテーブルやソファを設置している。 | | |